

一人残らず 全員を
賢くする

45分の授業づくり

目指す授業(レベル1)

- A 苦手な子が、授業の終わりに自力で問題が解けるようになる。
- B 得意な子が、45分間 集中する。

この2つを 同時に実現する授業

すぐ出来ること 準備なしで

- ① 例題の問題文を板書しない、ノートに写させない。
- ② 教書のまとめを ノートに写させない。
代わりに、5回唱えさせてその場で暗記。したかどうか天井向いて自分で確かめ
- ③ 授業の終わりに、ノートを見開きで集め、苦手なこのノートをさっと見る。
- ④ スキル教材まで授業でやって、45分終わり。宿題や朝自習にしない。

準備はいるけど、超 大事なこと

- ① 苦手な子が解けるとき方を考案すること。
- ② 子供が使っているのと同じノートに、事前に、その授業で子供がノートにすること、書くことを書いてみる。
練習問題も解いておくこと。
- ③ 忘れ物対策（消しゴム、赤青鉛筆、定規、ノート、削った鉛筆、下敷き、三角定規、分度器、コンパス、はさみ、のり）
数人分教室に常備

授業の流れ

例題

苦手な子が解けるようになる，解き方を考案し，解き方を指導する。

類題

苦手な子が自力で解く。3度の繰り返し

「苦手な子が、解けるようになる」**解き方** の **条件**

- ① 何から手を付ければよいか示す。
- ② 手順が明快で、迷わない。
- ③ 頭に数字やデータを貯めなくてすむ。
- ④ ミスが出にくい。
- ⑤ 確実に答えが出る。
- ⑥ 既習事項の未修得があってもなんとかなる。
- ⑦ サクサク解ける。

「苦手な子が、解けるようになる」 解き方 考案事例 その1

- 分数のたし算 5年
- 2位数のたし算の筆算 2年
かけ算の筆算 3年
- 小数のかけ算・わり算の文章問題の立式 5年

「苦手な子が、解けるようになる」
解き方 考案事例 その2（単元丸ごと開発）

- 単分量あたり 5年
- 割合 5年
- かけ算九九 2年

「苦手な子も得意な子も、集中する」指導の仕方

- ① テンポをよくする。
- ② 3度の繰り返し
- ③ 大事なことは、その場で覚えさせる。
- ④ しているか、出来ているか、ぱっと点検する。

① テンポをよくする。

- ・説明を減らす、なくす
- ・小刻みな作業指示を出す(言わせる、書かせる、指さす)
- ・待たないけど、追いつかせる

② 3度の繰り返し

- ・似たような問題を3回解かせる。(ムダを省き、時間を作る)
ムダ→例題を写させる・まとめを写させる

③ **大事なことは、その場で覚えさせる。**

公式 まとめ→見て5回唱える、天井見て言えるか確かめ
用語 指書きで覚える 空書きで確かめる。

次の授業の始めの1分で再度言わせる。

④ **しているか、出来ているか、ぱっと点
検する。**

ノート点検 授業中 隣同士、1問だけ持ってこさせる、
授業終了時に見開きで集める

ノート指導

- 年間 8 冊以上使わせる
- 後で見返したくなるノート

ノートの書き方の指導 あるよ

練習問題 6問、8問、単元末の1ページ

- 苦手な子も、得意な子も、集中して、すべての問題がノートに解かれてある を実現する

練習問題指導 あるよ

学習意欲を爆発的に高める方法 あるよ

- 授業開始時に、教科書、ノート開いて、日付まで書いて 待っている。
- 終わりのチャイムがなると 「え～～ もっと続けたい」と言う。
- 復習を自発的にやってくる。
- 1日に2時間算数をやりたいという。
- 算数の授業 好きになった 楽しみになった という。

テスト のさせ方 あるよ

- ・ 30点、40点だった子が、80点、90点 とるようになる。
- ・ 90点取って 「悔しい」というようになる。
- ・ 95点、100点が 続出する。
- ・ 見直し、解き直しを 進んでするようになる。

- 問題を解いていて分からなくなると、
 - 前のノートを見て、解き方を確認する。思い出す。
 - 鉛筆とノートを持って、さっと教卓に教わりに来る。
- 練り上げで、複数の解き方の検討が、うまくできる 手立てと手順
時間切れになったり、ぐちゃぐちゃになったり、強引に1つにまとめなくても、、、、
- 今年、単元「図形の角」（三角形、四角形、多角形の内角の和）で
2つの事件 あ～、時間が足りない、話したい